北上市Ｐ連会報

第 36 号

―発行日―
平成 26 年
(2014 年)
12 月 19 日

発行：北上市ＰＴＡ連合会　　企画編集：広報委員会　　印刷：北上アビリティーセンター

ＰＴＡ奉仕活動 ～親子清掃作業～

新聞報道では、小学校の「いじめ」が過去最高の11万8,805件あり、暴力行為も増加し、初めて1万件を超えた…と文部科学省から発表されました。少子化が進んでいるこの時代に、なぜここまで増え続けるのか…。それは、子供たちの心の中に問題があるのではないでしょうか。

「たかが掃除…」と一言でいっても「清掃」という作業を通して、物への思いやりや、集中力をつけさせる大切な事だと、改めて考えさせられ、もっとこういう事業を進めていくことで、やがては子供たちの心の中も綺麗になり立派な大人になっていく事につながるのではないでしょうか。　　**“床の光は心の光”、“清掃は心を磨く”**

目次

☆特　　集　「犯罪から身を守る」……Ｐ２
☆学校紹介　口内小・飯豊中 ……Ｐ４
☆報 告 １　市Ｐ連研修大会 兼
Ｐ会長･校長･副校長交流研修会…Ｐ５
☆報 告 ２　市Ｐ連母親委員会の活動 ……Ｐ５
☆報 告 ３　東北ブロックＰＴＡ
研究大会盛岡大会 ……Ｐ６
☆市Ｐ連会長あいさつ・編集後記 ……Ｐ８

北上市ＰＴＡ連合会ホームページ　http://www.kitakamipta.net/

ネット犯罪の現状から

常盤台交番所長　二　木　　文

平成 25 年中に岩手県で少年の福祉を害する犯罪で検挙された者は 50 人で、45 人の少年 (うち女子 35 名) が被害に遭いました。そのうち、コミュニティーサイト等を利用して被害に遭った少年は 20 名にもなります。

このような犯罪を取扱いながら、いつも氷山の一角でしかないと感じてきました。

現代は、インターネット社会であり、携帯電話やスマートフォンを持つ子、インターネットを利用する子のそのほとんどが、インターネットの世界で友達を作ることは当たり前になっています。保護者の方は、子供たちのインターネット内の友達のこと知っていますか。『友達が欲しい』『異性と交際してみたい』そんな思春期の当然の欲望も、インターネットの世界は何の障害もなく簡単に叶えてしまうのです。

しかしながら、経験の未熟な子供たちに、良い情報と悪い情報を選択する能力があるのでしょうか。

子供が得るべき情報には段階があると考えます。まだ、受け入れる精神的な準備ができていない子供たちが刺激的な情報を受け取ればどうなるのでしょうか。

皆さんにお伝えしたいことは、ここからです。

知らない人と繋がらないようにするため「インターネットを使わせない」「携帯電話を持たせない」という考えでは対応できなくなっていませんか。もう子供たちの周りからインターネットを消すことはできないのです。では、どうするのか。

●子供たちが得る情報に段階を付ける (制限する) ため、フィルタリングの確実な設定を行う。

●利用時間にルールを設ける。

●インターネットに起因した犯罪にはどのようなものがあるか保護者自身が興味を持ち、子供たちにその危険性を教えてあげる。

スマートフォン等を買い渡して終わりにせず、日頃からインターネット教育を行い、子供たちの情報選択能力を育ててあげることが、私たち大人の役割なのです。

福祉犯　法令別　年次別　検挙人員及び被害者数

	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年
検挙人員総数	27	22	51	48	43	50	50
児童福祉法	3	2	1	1	1	1	2
売春防止法		1					
職業安定法							
労働基準法							
未成年者喫煙禁止法		2	8	7	3	15	11
未成年者飲酒禁止法		1		1	1	1	
風営適正化法	7	5	1	2	1		
毒劇物取締法							
覚せい罪取締法	3			1			1
児童買春・児童ポルノ禁止法	2		12	8	9	9	10
青少年環境浄化条例	12	10	26	28	26	23	25
その他法令		1	3		2	1	1
被害者総数	29	21	58	53	40	42	45
男子	1	2	9	10	4	13	10
女子	28	19	49	43	36	29	35

コミュニティサイト等利用福祉犯　法令別　年次別　検挙件数・検挙人員及び被害者数

年次別・区分 / 法令別	21年			22年			23年			24年			25年		
	検挙件数	検挙人員	被害者数	検挙件数	検挙人員	被害者数	検挙件数	検挙人員	被害者数	検挙件数	検挙人員	被害者数	検挙件数	検挙人員	被害者数
総数	27	22	22	24	21	24	19	17	15	15	15	13	21	21	20
児童福祉法							1	1	1						
児童買春・児童ポルノ禁止法	8	6	9	3	3	3	6	4	4	4	4	3	5	5	4
青少年環境浄化条例	16	13	13	21	18	21	10	10	10	10	10	10	16	16	16
出会い系サイト規制法	3	3					2	2		1	1				
売春防止法															

江釣子中学校 PTAの取組

「マナーアップ運動と安全指導」
～登下校の見守りから～

江釣子中学校ＰＴＡでは、生活指導部による「自転車マナーアップ運動」と「安全登下校指導」という取り組みを行っています。

学区は広く、全校生徒の 50% は自転車通学です。部活動のために許可された生徒も入れると 77% が自転車通学となります。そのため、登下校時の自転車による事故が一番心配される状況にあります。そこで、ＰＴＡ生活指導部では「自転車マナーアップ」と称して、各地区 (17 区) 毎の危険箇所に保護者が立ち、朝の安全登校を呼びかける活動を行っています。

また、「安全下校指導」は、学校の周辺４ヶ所に保護者が立ち、下校する生徒に安全と防犯の声がけをする活動です。部活動が終わって帰路につくあたりは薄暗くなる時間帯ですので事故や不審者に注意するよう声をかけて安全を促しています。

「芸能発表会」

～健全育成と地域の繋がりの中で～

防犯とは直接的な関係はありませんが、江釣子中伝統のＰＴＡ行事「芸能発表会」や地区の運動会・文化祭は地域の方たちとの深い繋がりという点で、犯罪の未然防止を支える環境の一つになっているのではないかと思います。

「芸能発表会」のために、17 すべての地区で生徒たちは地域の大人たちから教えを受けます。地域の大人が子供たちにかかわる機会が減少している今、この繋がりは稀有なことではないでしょうか。

また、江釣子地区の運動会には選手としてもボランティア係としても、多数の江釣子中生が参加します。地区の文化祭には吹奏楽部や特設合唱部が参加します。

一般的に希薄な人間関係の中では防犯意識も薄れますが、本校ではＰＴＡや地域の行事を通して、学校とＰＴＡと地域が密接な関係を保つためにも、「芸能発表会」は大切な行事となっています。

飯豊小学校 PTAの取組

「防　犯」

飯豊小学校では今年度、児童を対象に二度、教師を対象に一度、防犯教室が行われました。

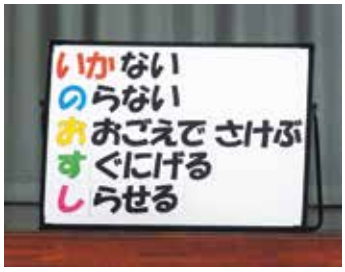
元北上警察署の署員の方と少年補導員の方を講師に招き、少年犯罪、薬物犯罪、誘拐等児童に起こりうる可能性のある犯罪を教えていただきました。

不審者が校舎に侵入した事を想定した訓練では、担任の指示のもと児童は冷静に対応し避難するとともに、すぐに児童が職員室へ報告に行き、教師による不審者への対応、校内放送が速やかに行われていました。

その後、少年補導員の方から防犯についての説明が行われ、全児童が真剣に聞き答えていました。

学校に不審者が来た場合は、先生に頼るだけではなく自分の考えで速やかに行動すること、遊びでも蹴ったり叩いたりして怪我をさせてしまうと傷害罪になる可能性があること、小さくて安いお菓子１つでも取ると万引きということを説明とともに教えていただきました。

登下校時の「いかのおすし（行かない、乗らない、大声で叫ぶ、すぐ逃げる、知らせる）」の約束を忘れず、すぐに答えられていて、児童の防犯意識の高さを知ることができました。



近頃、全国各地で誘拐等児童が巻き込まれる事件が多発しています。我々ＰＴＡも防犯意識を高め児童を守っていかなくてはいけません。

学校紹介

～地域と共に～

口内小学校ＰＴＡ

口内小学校ＰＴＡでは、「地域での活動を充実させ体験させよう！ 地域を知り、理解しようとする心　かかわりを大切に思う心　地域を愛し、役だとうとする心を育てよう！」をスローガンに活動しており、学年ＰＴＡ、校外指導部、広報部、厚生社教部それぞれの各専門部が特色ある様々な事業を企画し展開しております。

ＰＴＡ事業とは別に“緑のふるさと実践協議会”が立ち上げた「きらめき活動講座」では、地域の方々が講師となり、切り絵やちぎり絵、昔遊び、ゲートボール、郷土芸能など地域の方々とふれあい交流を深め、伝統文化の継承となる素晴らしい活動があります。郷土芸能の一つ鬼剣舞では、口内鬼剣舞保存会から指導を受け、運動会、地域の催し物、北上みちのく芸能まつり、福祉施設の慰問など沢山の活動と発表の場で、子供たちを見守り育んでいただいております。また、ゲートボールでは全国大会出場を目指し地域の方々のご指導の下、練習に励んでおります。

この様な活動を通して故郷口内を愛し、支える心を持つよう成長してほしいと願っております。しかしながら、年々少子高齢化や人口流出に伴う子どもの減少など、口内地区も決して例外ではありません。たとえ進学や就職で故郷を離れたとしても、いつまでも故郷を想い忘れない心を持ってほしいと願っております。

口内小学校は明治６年７月 25 日に開校以来、昨年、140 周年を迎えることができました。これからも 150 年、200 年と歴史を重ねていけるよう地域と共に歩んでまいりたいと考えております。

学校紹介

～鬼宿る学舎　飯豊中学校の伝承活動～

飯豊中学校ＰＴＡ

北上市立飯豊中学校の昇降口、各学年棟の廊下に、本校の美術部の生徒がつくった鬼剣舞の面が飾られています。まるで、生徒達に「がんばって勉強しろよ。」「いじめは許さないぞ。」「仲間を大切にしろよ。」と見据え、見守っているようです。

飯豊町の鬼剣舞は、明治 42 年に発足して以来 100 年以上の歴史を誇っています。本校では昭和 52 年に創立 30 周年記念の「卒業生との座談会」の中で「是非、飯豊中学校で鬼剣舞を。」という要望が出され、すぐには実現しませんでしたが、昭和 62 年の１年生から鬼剣舞道場、保存会の方々と連携し取り組みを始めました。

以来 27 年間、体育祭では全学年の男子が鬼剣舞を、女子はさんさに取り組み、披露をしています。

飯豊中学校のもう一つの伝統に「ちょボラ」があります。「自分のできること」を「無理せず」「人のために」行う「ちょこっとボランティア」の取り組みです。今年度の３年生は「ちょボラ」活動で、宮古市の仮設住宅にお住まいの方々に喜んでもらおうと「自分たちができる」合唱・鬼剣舞に取り組み、披露してきました。鬼剣舞を披露したのはリーダーの生徒たちでしたが、自分たちの思いを込めた自分たちの鬼剣舞ができたと感じています。

これからも、保護者の皆様、地域の鬼剣舞道場、保存会の皆様との連携のもと、鬼剣舞が自分たちの価値として位置付くよう取り組み伝承していきたいものです。

飯豊中学校は、各学年棟に飾られてた鬼の面だけでなく、一生懸命に教える鬼（教師）、貪欲に教わる鬼（生徒）、あたたかくも厳しく見守る鬼（保護者）の３者の鬼が宿る学校です。

平成26年度 北上市PTA連合会研修大会 兼 北上市PTA会長･校長･副校長交流研修会

「夢をあきらめない ～ラグビー校長の理論と実践～」

講 師　大八木 淳史

今年の北上市ＰＴＡ連合会研修大会は、ＰＴＡ会長・校長・副校長交流研修会との合同で、８月９日にホテルシティプラザ北上で開催されました。

講師には、元ラグビー日本代表選手で神戸製鋼等で活躍した「大八木淳史」氏を迎え、一般参加者も多数参加し盛大に行われました。

私が「大八木淳史」の名前を初めて知ったのは、今から三十数年前のことです。当時は新日鐵釜石が全日本ラグビーフットボール選手権７連覇中の黄金時代でした。向かうところ敵なしの新日鐵釜石に対して、巨体を揺らしながら鬼のような形相で突進してくる選手が「同志社大学の大八木選手」でした。大八木氏の現役時代の豪快なプレーをリアルタイムで見てきた世代としては、本当に楽しみにしていた講演会でした。

講演会は、夢を持つことの大切さ、スポーツ本来の役割について、コミニュケーション能力の重要性等々、盛り沢山の話題がユーモアを交えながら、次から次へとテンポ良く出てくる、笑い声の絶えないひと時となりました。

中でも一番印象に残ったお話は「将来、勉学やスポーツ等で頂点に立てるのは、ごく少数の子供たちだけで、多くの子供たちは頂点に立つことができない。その多くの普通の子供たちと、どのように向き合い育てて行くかが大切である。」と言った内容でした。分かっていたはずの事ですが、妙に納得し自問自答してみました。初めて我が子が産まれて来るときは「とにかく、生きて産まれて来てくれ」とだけ願っていたはずが、いつの間にか我が子に大きな夢を背負わせようとする親になっていました。

これからは「普通の子供たちと思われる？３人の我が子」が、親が期待する夢ではなく「自分の夢を持ち、その夢の実現に向け努力し、そして夢をかなえること」を、私の「あきらめない夢」にしたいと思います。

（黒岩小ＰＴＡ　昆　精寿）

平成26年度　北上市ＰＴＡ連合会母親委員会の活動

今年度の母親委員会では、食育をテーマに２回研修会を行いました。１回目は８月27日に北上市西部学校給食センターの見学と、所長さんの講話、給食の試食。２回目は10月22日に株式会社湯田牛乳公社と湯夢プラザの見学をし、バター作りと食の匠の髙橋節子さんによる郷土料理「凍大根の煮付け」作りの講習会を行いました。両見学施設はどちらも衛生管理が徹底され、直接子どもの口に入る食物の安全性に信頼を深めました。更に給食センターで献立を作成する際には、地産地消にも配慮していることに感心しました。

今回講習を行った、凍大根の煮付けといった古き良き郷土の料理は、なかなか家庭でも作らなくなりました。是非、紹介の意味も含め、給食でも出して頂きたいという声が参会者から聞かれました。

２回とも食について考えることのできた有意義な研修会でした。「生きることは食べること」という、当たり前で大切なことを、今一度しっかり考えなくてはと思わされた一日でした。

お世話して下さった関係各位に感謝申し上げます。

（江釣子小ＰＴＡ　田原智子）

◀西部給食センター内部

◀湯田牛乳公社でのバター作り

◀給食の試食会

◀凍大根の煮付け作り講習会

第46回 東北ブロックＰＴＡ研究大会 盛岡大会

第４分科会　～家庭と小学校教育～ の報告

岩手県民会館中ホールを会場に開催された第４分科会では、大阪大学大学院教授・教育学博士　小野田正利先生の『いちゃもん（無理難題要求）を超えて』と題しての基調講演が行われました。内容および感想を報告します。

まず、最初に驚かされたのは、小野田先生の服装です。唐草模様のジャケット、その下のＴシャツには「ダイエットは明日から」のプリント。軽快な関西弁もあり、とても楽しく話を聞くことができました。

保護者は「孤立化」「自子（自分の子だけ）中心主義」。教職員は様々な課題を上から押し付けられ、トラブルになることを不必要なまでにおびえているなど、本当に余裕がなくギスギスする社会状況の中で、問題の本質はどこにあるのかをひも解いてお話しいただきました。特に印象に残ったことは、大人同士の「袖引く関係」。大きな問題になる前に、身近な人がちょっと注意したり、誘ってあげたりすることのできる関係が希薄になってきているのではということです。それには、日頃の挨拶や、ＰＴＡ活動を通じての関係の形成が必要に感じました。

また、子供に対しても「心の安全基地づくり」の大切さをお話しされていました。子供に褒めるときに頭をなでることや、ハグすることはとても大事であることを改めて認識させられました。とても面白い話が多く、人間関係や親子関係を考えさせられる講演でした。

（照岡小ＰＴＡ　髙橋喜一）

第７分科会　～特別課題Ⅱ 家庭教育セミナー～ の報告

東北ブロックＰＴＡ研究大会が９月６日、７日に盛岡で行われました。

私は、盛岡市民文化ホールの第７分科会、家庭教育セミナーに参加しました。

第７分科会は、「支え合いつながる喜び家族の和」という研究内容で、支援の必要な子供たちの姿を通して、個性や発達の違いを認め合い支え合う心を育む家庭教育のあり方について、ということで進められました。

基調講演は、あの「あまちゃん」の音楽を作った大友良英さん。大友さんは 2005 年から参加している神戸の「音遊びの会」での知的障がいを持つ子供たちとの音楽経験を中心に、自身の様々な音楽体験を語って

いただきました。
　次のパネルディスカッションは３名のパネリストと、コーディネーター、あと基調講演に引き続き大友さんが、障がいを持つ子どもたちとの関わりや体験を発表しながら、子供たちが個性を生かしつつ、集団活動や社会に溶け込んでいる、障がいのある人もない人も、共に生きる共生社会について、話し合いました。
　会場からの質問も熱く真剣に、時には笑いもあってとても有意義で考えさせられる一日でした。
（東陵中ＰＴＡ　昆野将之）

全　体　会　～開会式･表彰式･アトラクション･記念講演～ の報告

９月６日～７日、２日間に渡り第46回東北ブロックＰＴＡ研究大会盛岡大会が開催されました。その最後を締めくくる全体会が、東北各地より2,000人を超えるＰＴＡ会員を迎え、岩手県民会館大ホールで執り行われました。受付付近では、広島で発生した大雨による土砂災害の募金が行われていました。
　岩手県知事　達増拓也様、日本ＰＴＡ全国協議会会長　尾上浩一様ほかを来賓として迎え祝辞をいただきました。
　ＰＴＡ活動の功労者、優良団体に対し表彰が行われました。20年近くも県ＰＴＡ会長のような要職を務められたことは、驚きと共に敬服いたします。
　アトラクションに続き次期開催地、宮城県亘理・山元地区のあいさつが行われました。ＰＲの法被を着た団体とＰＲキャラクターが町の紹介を行っていました。しかし、その裏では東日本大震災以降初めての被災地域での開催となり、地元では復興もままならない状況での開催は無理だとの声も多かったようです。
　記念講演としてチベット声楽家バイマーヤンジンさんがチベットの民族衣装で登場しました。チベットでは「教育を受けていないため字がわからず土地を騙し取られること」「進学した学校で民族差別を受けたこと」「日本人と結婚」「日本での便利な機械に囲まれての生活について」「チベットは富士山より高いところにあるので旦那さんは妻の実家に行くたびに高山病になること」「修学旅行はぜひチベットへ」と締めくくられました。
　時間を大幅にオーバーしてもまだ話し足りないようでしたが、最後にチベットの歌と復興支援ソング「花は咲く」を歌い今大会の全てが終了しました。
（笠松小ＰＴＡ　戸巻明博）

会長あいさつ

北上市ＰＴＡ連合会
会 長　小舘　良史
（北上北中学校ＰＴＡ会長）

平成 26 年度北上市ＰＴＡ連合会会長を務めさせて頂いております小舘良史と申します。佐藤真弘前会長のご指導を頂きながら役員の皆様と共に一生懸命務めさせて頂く所存であります。何卒宜しくお願い申し上げます。また、平成 26 年度も折り返し地点をまわり各地域のＰＴＡ活動におかれましても子供たちの為に精力的に活動をされておりますことに心より感謝申し上げます。

さて、ＰＴＡ活動を行う上で根底にあるのが「子供の笑顔づくり」です。しかし、子供たちを取り巻く環境は目まぐるしく変わり、子供の教育が容易でない時代にあり、ＰＴＡ活動に寄せられる期待も多様化し、かつ大きくなってきているのが現状です。少子化や核家族化が進み、スマホやネットの急速な普及など情報の氾濫は子供たちの心身の健やかな成長に大きな影響を及ぼしており、いじめや体罰、虐待、子供を巻き込んだ事件が連日報道されております。学校教育は思考力や判断力、表現力などの能力と主体的に学習に取り組む態度を養うことを目標に取り組んで頂いております。しかしながら、将来を担う子供たちを教育していく上では、学校教育だけでなく学校と家庭が連携した中で行う家庭教育は非常に重要であると考えます。

我々保護者も家庭教育という立場では一教育者として責任を持って子供たちの健全育成に取り組んでいかなくてはなりません。子供の笑顔づくりとは、一瞬の喜びや楽しさはもちろんのことですが、子供たちが大人になった数年後を見据えての笑顔を創出することです。混沌とした社会の中で子供たちの未来の笑顔を創出するために、時には厳しい言葉を掛けたり、困難に向かわせたりと大人になってからの苦労を見据えて教育していくことも我々保護者の使命であると考えます。「教育の原点は家庭にあり、子供の教育の土台は家庭環境にある」という言葉を踏まえ、様々な形で根気強く、子供たち一人ひとりとしっかりと向き合い、家庭、学校そして地域と連携・協働しながらＰＴＡ活動を邁進していきましょう。すべては子供たちのために！

平成 26 年度 北上市ＰＴＡ連合会役員

＜会　長＞	小舘　良史	（北上北中　Ｐ会　長）
＜副会長＞	鈴木　　明	（上　野　中　Ｐ会　長）
	照井　　渉	（和賀東中　Ｐ会　長）
	髙橋　清乃	（和賀西小　Ｐ会　長）
	髙橋　喜一	（照　岡　小　Ｐ会　長）
	伊藤　隆一	（黒沢尻西小　Ｐ会　長）
＜監　事＞	藤田　豊剛	（黒沢尻北小　Ｐ副会長）
	菊池　　勝	（江釣子中　Ｐ副会長）
	軽石　卓也	（立花小学校　Ｐ副会長）
＜顧　問＞	佐藤　真弘	（前市Ｐ連会長・黒北小Ｐ会長）

平成 26 年度北上市ＰＴＡ連合会広報委員会

＜委 員 長＞	鈴木　　明	（上　野　中　Ｐ会長）
＜副委員長＞	髙橋　喜一	（照　岡　小　Ｐ会長）
＜委　　員＞	髙橋　勝幸	（黒沢尻東小　Ｐ会長）
	畠山　　優	（飯　豊　小　Ｐ会長）
	昆　　精寿	（黒　岩　小　Ｐ会長）
	瀬戸　和信	（口　内　小　Ｐ会長）
	高橋　晃大	（鬼　柳　小　Ｐ会長）
	及川　　功	（江釣子小　Ｐ会長）
	戸巻　明博	（笠　松　小　Ｐ会長）
	昆野　将之	（東　陵　中　Ｐ会長）
	杉澤　友哉	（飯　豊　中　Ｐ会長）
	八重樫　透	（江釣子中　Ｐ会長）
＜事 務 局＞	八重樫　仁	（上　野　中　Ｐ事務局）
	佐藤　淳生	（照　岡　小　Ｐ事務局）

編集後記

北上市ＰＴＡ連合会広報委員会の担当となった当初、私の心は激しく揺らめいておりました。役目を果たせるのかな？…不安もありましたが、知り合う人全ての方より多くの刺激を受け、ＰＴＡ活動であることを半分（それ以上かも）忘れて楽しませていただきました！

広報委員会の最も重要と思われるこの会報作成に関しましては、担当の先生方に大変な苦労をおかけしてしまいました。

また、お忙しい中、ヘロヘロになった体に鞭打って原稿をお寄せいただきました会長様はじめ、広報委員会の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。